

献堂



2014年11月23日

日本キリスト教団 **生田教会**



新しい会堂を献堂する

日本キリスト教団 生田教会牧師 禿 準 一

教会創立 12 周年の年、1969 年 5 月に旧会堂を献堂して 45 年がたち、今新しい会堂を、神と主イエスキリストに献げる事ができるのは、生田教会に連なる私達の喜びであり感謝です。新会堂建築の促しは、全体的に手狭になった旧会堂、何回かの継ぎ足し、老朽化、耐震問題などの建物の問題もありましたが、会員の年齢や諸条件を考慮した時、今なら次の世代に託す新しい会堂を建てる事ができるとの判断で決断しました。しかも外部に募金をお願せず、自分たちの力だけで建てる決心をしました。当然と言えば当然ですが、地方教会で苦勞している方たちを思うと、都市郊外にある私たちは恵まれており、少しでも自ら身を切る苦勞しようとの思いでした。感謝すべきことに、神は私達のその思いを導いて下り、必要を満たして下さいました。

新会堂の建築にあたって、建築家の決定、どんな建物にするか、建築会社の選定、教会員の合意の形成など難しいプロセスを良く建築委員会が担ってくれました。この方たちの忍耐と献身的な働き無しには建築は実現できなかったと思います。

会堂を建てるという事は、教会の宣教の姿勢と乖離しません。私達の教会が宣教の基本方針をこの 20 数年、毎年の教会総会で確認して来たのは以下の内容です。①全年齢層を対象とし、「礼拝、伝道、奉仕」の使命を包括的に宣教と理解し、これらを全体的に担う使命共同体である。②年齢、性別、国籍などの違いを越えて、この実現に励む。③地域社会のニーズに応える教会となる。④主イエスの教えと生き方に促されて、この世の弱い立場の人々と共に生きる。⑤グローバルな規模の視点で、共生をはかる。

私達が設計者を決めさせて頂く時の願いは、上記の内容を担う教会堂を設計して下さいました。西沢立衛氏が最初の頃に「教会の機能と建築思想とは別ではない」と言って下さったことに安心と期待をもって、建築の完成を待ちました。そして大胆な会堂が完成しました。私達はこの会堂を神様に献堂し、宣教の使命を全うしたいと思います。



献堂式を迎えて

会堂建築委員長 樋口 哲夫

2014年11月23日、多くの教会員が熱い祈りを続け、待ちに待っていた新会堂の献堂式を迎えます。これまでの長い新会堂建築の歩みに、設計会社、施工会社、そして私たちの教会を、常に上より導いて下さった神様に心から感謝をいたします。

私たちの教会は、1957年の創立より会堂を持たず近くの幼稚園を借りながら礼拝を守ってきました。それほど多くない教会員ではありましたが、皆で熱い祈りを捧げ続け、1969年5月、ついに新しく会堂を建設することができました。その献堂の喜びはいかばかりであったでしょうか。その会堂も、雨漏りや壁の一部崩落など老朽化が進み、また、100名前後の礼拝出席者を収容する集会室を求める声も強くなり、2006年度3月定期総会で会堂建替えを決議することとなりました。その後、皆で幻の実現に向けて話し合いを始めました。

教会の敷地は狭い上に旗竿地であり、この敷地に120名の礼拝堂と100名程度収容の集会室、更に15台程度の駐車場を設けるといいう難しい要件を克服するには、建築家の手腕が非常に重要なものと考えました。幸いにも、著名な建築家である西沢立衛氏が、工事金額に制約があるにも拘わらず、私たちの基本構想を理解して頂き、私たちの教会建築設計に対応して下さいました。

基本設計案を確定するまでに、約2年半の時を要することとなりました。この間、設計者と教会員の間で何度も何度も話し合いを重ねて、私たちの困難な要件を満たすべく設計の見直しがなされました。改めて、西沢立衛建築設計事務所の方々の並々ならないご努力に心から感謝を申し上げます。

実施設計完了後、施工業者である株式会社辰は非常に丁寧な工事を進められ、無事故無災害で工事は完成されました。心から感謝申し上げます。

これまでの建築工事の期間、礼拝の場所として聖堂をお貸し頂いたカトリック百合ヶ丘教会、また駐車場を無償でご提供して下さいましたルミエール幼稚園、仮事務所としてお貸し頂いた日だまり工房、ひびき工房、教会の備品関係の保管場所を提供頂いた農村伝道神学校等、その他多くの皆様のご理解とご協力の下に、私たちは教会生活を過ごすことができました。心から感謝をいたします。

これからの10年、20年、この地において、「私の家は全ての民の祈りの家と呼ばれる」教会となるように、私たちはこの献堂式から、新たに神様から託された宣教の業を、祈りをもって歩み始めたいと思います。



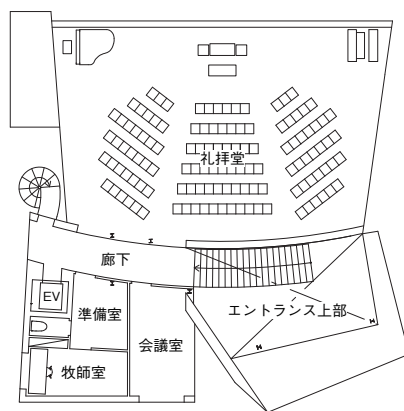
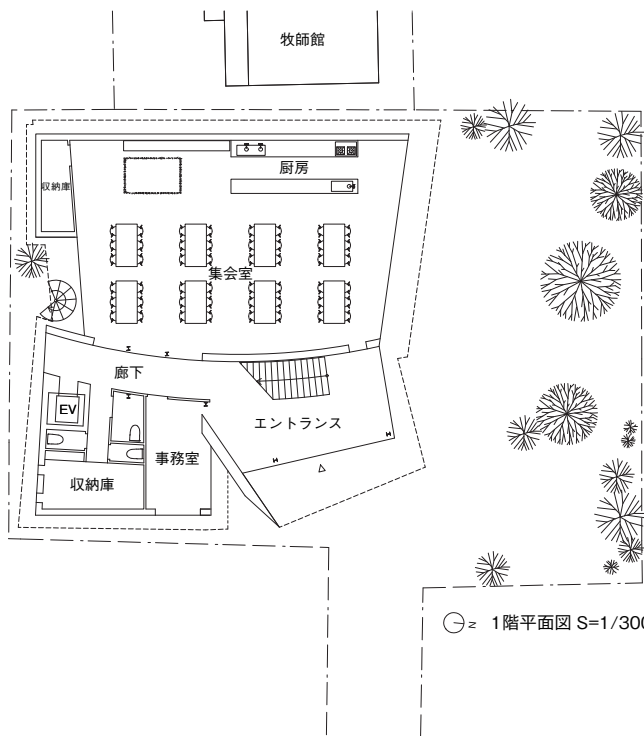
生田教会新会堂の建築について

西沢立衛建築設計事務所 西 沢 立 衛

生田教会の新しい会堂は、延床面積約 400m² 鉄骨二階建ての建物である。設計期間は、2009 年 9 月の現地訪問をスタートとして、2009 年の指名コンペティションを経て、2013 年 7 月の起工式まで、約 46 ヶ月を費やした。建設工事は株式会社辰によって、2013 年 6 月から 2014 年 9 月までの 15 ヶ月の期間をかけて行われた。

新会堂は、機能諸室の構成としては一階に集会室とエントランス、事務室、二階に礼拝堂と牧師室、会議室を持つ。配置としては、旧会堂と同じ敷地の中で、旧会堂の配置を避けて建設するというロジスティック的理由から、かつて庭であった南半分の場所に建つこととなった。その結果、旧会堂が建っていた北側がアプローチと駐車場を兼ねた庭となって、会堂と庭の関係が反転する配置となった。

建築設計上の大きな課題としてひとつ挙げられるのは、集会室と礼拝堂という二つの大空間を積層する必要があったことだ。それらを普通に積むとたいへん大きくなるので、ここでは屋根傾斜をつけて軒高を低くして、また建物全体を柔らかく三つの棟屋に分けてスケールを抑えて、住宅地を圧倒しない佇まいを目指した。分節された三つの棟屋は、その空間規模や室内機能、周囲との関係などから、おのおの違う形となった。たとえば礼拝堂は、聖壇を中心とした対称的切妻勾配屋根の室であり、妻側を東に向けて朝日を取り込むとともに、屋根中央を切り開いて上方から光を取り入れる形とした。エントランスは、道路、庭、室内というアプローチをスムーズなものにするために、エントランス棟屋全体の角度を振って、道路へ正面する形とし、常に開かれうるような大きな引き戸を設けた。ロビー空間や集会室は、外と地続きの開かれた空間で、人々の活動や交流が外からも感じられる空間とした。そのようにさまざまなやりかたで建築内外の連続感、住宅地との調和を考えた。



2階平面図 S=1/300

新会堂の竣工にあたり

株式会社 辰 代表取締役社長 森 村 和 男

日本キリスト教団生田教会の新会堂の竣工を心からお慶び申し上げます。

周囲の建物に調和しつつも斬新さを併せもち、しかも威厳ある佇まいを見せる新会堂の工事をさせていただき、無事お引渡しが出来ましたことはこの上ない喜びです。

施工候補者としてのお話をいただき、禿牧師様を始め建築委員の皆様にお目にかかり、新会堂の建設は教会員お一人おひとりの熱い想いを形にすべく、設計を西沢立衛先生にお願いしたとのお話があり、その想いに応えることができたらどんなに施工者冥利に尽きることであろうか、と突き動かされたのが昨日のように思えます。

ご縁があり、弊社にご下命いただき期待を背負って厳かな起工式を執り行いました。然し、建設労務不足の影響、予想以上の難易度の高さで苦闘が続きました。そのような状況下、建築委員の樋口様、石田様、西沢立衛建築設計事務所の藤澤先生のご指導のおかげで遅れながらも何とか定礎式を迎えることが出来ました。

その式典には多くの教会員の皆様が参列され、完成への期待の大きさと責任の重さを改めて認識させていただき、結果、工事に携わる職人の一人ひとりに至るまで皆様の想いが伝わることとなり気持ちをこめて完成することが出来ました。

そのようなことから、この新会堂は禿牧師様はじめ建築委員の皆様、教会員お一人おひとりの熱い想いがあったからこそ完成できたのだと改めて確信しております。

この新会堂が皆様に末永く愛され、日本キリスト教団生田教会様の発展に繋がることができれば施工者としてこのうえない喜びと誇りです。ありがとうございました。

名称 : 日本キリスト教団 生田教会
所在地 : 神奈川県川崎市多摩区西生田 4-9-3
設計・監理
建築 : 西沢立衛建築設計事務所
構造 : 佐々木睦朗構造計画研究所
設備 : 環境エンジニアリング
音響コンサルタント : ヤマハ

施工
建築 : 辰
設備・衛生 : 共立設備
電気 : 糸井電設

規模
敷地面積 : 581.18㎡
建築面積 : 221.56㎡
延床面積 : 393.92㎡
建蔽率 : 38.12%(許容 50%)
容積率 : 67.78%(許容 100%)
各階面積 : 1階 212.54㎡ / 2階 181.38㎡
階数 : 地上 2階
階高 : 3.09m
天井高 : 1.94~5.93m
最高軒高 : 7.27m / 最高高さ : 9.91m

期間
設計期間 : 基本設計 2009.09~2012.04 / 実施設計 2012.05~2013.07
施工期間 : 2013.06~2014.09

敷地条件
地域地区 : 第1種低層住居専用地域、都市計画道路区域内
道路幅員 : 5.5m

構造
主体構造 : 鉄骨造
基礎 : 布基礎

外部仕上げ

屋根 : ガルバリウム鋼板 厚 0.5
軒裏 : ケイ酸カルシウム板 厚 6、アルミエキスパンドメタル厚 3
外壁 : セメントボード+水系アクリル塗装
開口部 : スティールサッシュ、アルミサッシュ

内部仕上げ

天井 : カバ羽目板 厚 10、石膏ボード厚 12.5+EP
壁 : カバ羽目板 厚 10、石膏ボード厚 9.5+EP、アルミエキスパンドメタル厚 3
床 : カバフローリング 厚 15、ラージ合板 厚 15、コンクリート+シールハード処理



新会堂建築の経緯

- 2000年度** 3月26日 定期教会総会において、会堂改築の方針を承認、2007年の教会創立50周年を目的に計画案の作成と資金積立の開始を決定。
- 2001年度** 3月25日 定期教会総会において、会堂改築計画委員会の設置を決議。
- 2002年度** 3月24日 定期教会総会において、2007～10年度を目的に改築を実施することを決議すると共に、会堂改築特別献金の応募を決定。
- 2005年度** 5月14日 役員会準備会を発足。
3月26日 定期総会において移転を断念し、現敷地に建築する役員会決議を報告。
- 2006年度** 5月28日 会堂改築検討委員会が発足。
6月18日 田淵諭先生を講師にお招きし、「教会ってなあに」と題する研修会を実施。
9月9日 教会キャンプに石川和夫牧師をお招きし、会堂建築の研修会を実施。
3月25日 定期教会総会において、3年後の改築開始を目的に現敷地に教会堂と集会室の建替を正式に決議。「私の家はすべての民の祈りの家と呼ばれる」(イザヤ56:7)を主題聖句に新会堂建築の基本理念・構想を策定することを決定。
- 2007年度** 7月29日 会堂改築ヴィジョン懇談会を実施。(11月25日、2008年2月24日にも実施。)
3月30日 定期教会総会において、①生田教会宣教方針に沿った教会堂建設②会衆席120席程度③集会室100名収容④本体工事1.1億円からなる「教会堂改築基本構想」を承認。
- 2008年度** 3月22日 会堂改築検討委員会を改組し、新たに会堂建築委員会を発足。
3月29日 定期教会総会において、①生田教会宣教方針に沿った教会堂建設②会衆席120席程度③集会室100名収容④総事業費1.5億円④完成11年10月を内容とする「教会堂改築基本構想」の修正を承認。
- 2009年度** 5月17日 「会堂改築資金への献金のお願い」(自己資金100百万円 借入50百万円)を教会員に配布。
9月13日 定例役員会において設計事務所候補3社を選定。
11月8日 3社によるプレゼンテーションを実施(教会員参加)
11月14日 臨時役員会において西沢立衛建築設計事務所を設計者として決定。
11月17日 西沢立衛建築設計事務所と設計監理契約の締結
1月10日 基本設計完了までは役員会と建築委員会合同で建築役員会を組織
- 2010年度** 8月1日 1階案、2階案の基本配置案を比較検討し、2階案の採用を決定。併せて、囲み型会衆席と12年6月の完成時期を承認(臨時教会総会)
- 2011年度** 8月21日 臨時教会総会で、礼拝堂・諸室・エントランスの3棟構成の基本設計案、完成時期13年6月を承認。
- 2012年度** 4月1日 定例役員会において、新たに実施設計を担当する第Ⅱ期建築委員会の立ち上げを決定。
4月22日 臨時総会で基本設計案の変更(屋根を切妻型に変更)、完成時期14年3月を承認。
6月17日 近隣に基本設計案を説明(6月17日、23日)。
2月23日 建築役員会で施工業者3社を選定。
2月24日 臨時教会総会で予算案の変更を承認(本体工事費1.5億円、総事業費1.9億円、教会員借入:25百万円)
- 2013年度** 4月7日 定期教会総会で施工業者2社の選定、最終選定を役員会に一任。
5月5日 カトリック百合ヶ丘教会の聖堂を借りて礼拝開始
6月2日 施工業者(株)辰との請負工事契約締結。
7月27日 起工式を実施。設計者 西沢立衛氏、森村(株)辰社長他が参列。
3月9日 役員会で竣工時期延期(14年9月15日)を承認
- 2014年度** 7月6日 設計者西沢立衛氏、森村(株)辰社長、教会員多数が出席し定礎式を実施。
9月26日 役員会、建築委員会で施工主検査を実施。
10月4日 役員会、建築委員会で竣工確認を行い、新会堂の引き渡し完了。
10月19日 新会堂での礼拝開始。
11月23日 献堂式。



日本キリスト教団 **生田教会**

〒214-0037 川崎市多摩区西生田4-9-3

TEL : 044-955-2923

FAX : 044-322-0175

ホームページ : <http://www.ikuta-ch.com>